

■船津伝次平 篤農家，明治三老農。35ヵ村の大総代としての取り組みが認められ，維新政府の農業指導者になった。

ふなずでんじべい

鼠小僧磔・・・1832＝ 上野国勢多郡原之郷で，_代々名主をつとめる農家船津伝次平の子に生まれる。

大塩平八郎乱1837＝ 5歳：

適塾わづン・ 1838＝ 6歳：この年午麦寺子屋を始めた父から学問を習い，和算にとりつかれ，

天保改革始・1841＝ 9歳：

隣村小出村の村塾において手習・素読を学びながら，

農業の考察・実験に励み，

阿部正弘首座1845＝13歳：

北斎没・・・1849＝17歳：下野足利の最上流大川茂三郎に師事，

国定忠治磔・1850＝18歳：さらに群馬郡の_関流斎藤宜義から和算を学びながら，

_農業の工夫研究を進める。

ペリー来航・1853＝21歳：

松下村塾・・・1856＝24歳：赤城山の神社に算額を奉納。

蕃書調所・・・1857＝25歳：_父が死去。伝次平を襲名し，寺子屋{九十九庵}の師匠や父の22年にわたる「家財歳時記」など引き継ぐ。

五ヶ国条約・1858＝26歳：原之郷の_名主となる。

安政の大獄・1859＝27歳：

桜田門外変・1860＝28歳：_赤城山西麓400余町歩の植林事業や養蚕業に従事，

生麦事件・・・1862＝30歳：_斎藤宜義から免許皆伝を受けた。

禁門の変・・・1864＝32歳：「家財歳時記」はこの年まで続けた。

明治維新・・・1868＝36歳：*維新に当たり，前橋藩から原之郷ほか35ヵ村の大総代を命じられた。

維新後，養蚕業の振興につとめ，

学問のすすめ1872＝40歳：学制発布に伴い，小学校設置方学務掛となり，

明治6年政変 1873＝41歳：_原之郷小学校実現。「桑苗簾伏法」を執筆，チョボクレ節で記述し，農家に広く配布，太陽暦採用に「太陽暦耕作一覽」を著し，熊谷県に送って印刷配布される。地租改正に，木盤小方機を考案して田畑測量。

初の民間工場1875＝43歳：「養蚕の教」を著す。_熊谷権令楯取素彦から農学特秀者として推挙され，内務卿大久保利通に認められ，

西南戦争・・・1877＝45歳：*内務省御用掛を命じられて上京，駒場農学校教師となる。

_農場監督として生徒に農事の実際を指導し，出張講演もしながら，多くの農学者を育てるが，

明治14年政変1881＝49歳：

_大久保亡き後，政府は西欧の大農法を導入するような方針となり，農学校で実験するよう命じてきて，

岩倉具視没・1883＝51歳：

秩父事件・・・1884＝52歳：10年前にチョボクレ節で記述した「里芋栽培法」刊行される。

内閣発足・・・1885＝53歳：*ついに辞表を提出，農事巡回教師となり，以後本格的に巡回指導に当たり始め，

帝国大学始・1886＝54歳：

「稲作小言」を書いて，大農論者に反論。

初の対等条約1888＝56歳：岩手県で「船津甲部巡回教師演説筆記」，島根県で「船津伝次平農事問答筆記」が刊行される。

帝国憲法発布1889＝57歳：「栽桑実験録」。_長野県から，講演の記録「巡回教師・農話筆記」が出版される。

この頃には，年間10回以上も各地に出張講演，

郡司千島探検1893＝61歳：_西ヶ原農事試験場技手となり，

日清戦争始・1894＝62歳：

日清戦争終・1895＝63歳：

白馬会・・・1896＝64歳：_技師に昇格したが，

子規句歌革新1898＝66歳：*なお，数回の出張講演を続けるなか，身体を壊して辞職し，没した。